



ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人 浦川 務
編集人 浦川 務
カトリック福岡司教区
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

11月の意向

【教皇の意向】富のふさわしい活用
【日本の教会】日本と韓国の教会

「出向いて行く」教皇レオ十四世の姿に学ぶ

福岡教区長 ヨゼフ・アベイヤ司教

に臨む教皇様の姿は心に響きます。

教皇レオ十四世の司牧訪問



教皇レオ十四世は、ローマ司教でもありますがカトリック教会の指導者になられてから、11回もローマ教区外の教会を訪問されました。その中の5回はイタリア国内の教区でしたが、後の6回はイタリア以外の教会でした。これらの司牧訪問の中でいくつかの特徴が見えてきます。

まず、できるだけ人々に通じる言語で話す努力です。本

対話を持ちたいという姿勢が強く伝わります。そして、人々の話を聞く場をいつもつくっていることです。若者、移住者、教会奉仕者、ボランティア、障がい者、子どもを育てている親、刑務所にいる人々、性虐待の被害者等です。話を真剣に受け止めて、対話

現代社会の課題を真剣に受け止める教皇

教皇レオ十四世は、最初から現代社会の抱えている課題を真剣に受け止めてその中に福音を生きる道を識別するように教会全体に呼びかけています。

最初の使徒的勧告「わたしはあなたを愛している」を通

して、不正、貧しさ、排除等の現状に目を向けて、教会の在り方を問い、イエスの示された道をより忠実に生きるように呼びかけました。

そして最初の回勅「人間の偉大さ」を通して人工知能(AI)の存在が大きくなって

いる世の中で、命の尊さ、人間の尊厳を守り育むことの大切さを訴えられたのです。現代文明が投げかけている新しい問いかけを恐れずにより深く理解するように努力し、それらに応えるために福音の光に導かれる必要性を強く訴えています。ただ、現代社会と対話するために新しい「ことば」が必要です。深い祈りと熱心な勉強なしには、人々に通じる「ことば」は生まれてきません。教皇様は大切な模

2026年度 第2回

福岡教区全司祭集会

9月15日、大名町教会講堂にて「第2回 福岡教区全司祭集会」が開催された。

午前、牧山強美神父(サン・スルピス司祭会)による

教皇回勅「マニフィカ・ウマニタス(人間の偉大さ)」の

時の話題

み言葉に触れるひととき

今年の正月、教区報で「聖書勉強会」の案内が目にとまりました。ファシリテーターはアベイヤ司教様、会場は大名町教会、開催日は第2・第4水曜日。北九州

市在住の私には参加が難しいところですが、一昨年4月から福岡市の支社に勤務し、小倉と博多を往復していたため、「これも神さまのご計画」と受け止め、参加することにしました。

初回は緊張しましたが、気さくな司教様から「少しでもみ言葉に触れてほしい。その助けができれば」という思いが伝わり、毎回、心地よい時間を過ごしています。

会は聖歌の一節を皆で歌って始まります。最初の15分ほどは、その日の箇所を読んだ感想や疑問を4人程度のグループで分かち合います。初めは苦手でしたが、次第に慣れ、さまざまな受け止め方を聞くのが今では楽しみです。

その後、司教様が時代背景や筆者の立場、旧約聖書からの引用、ほかの福音書との比較などについて、体験も交えながら、理解を深めるヒントをくださいます。現在はマル

範を示していらいっしやいます。

+

「出向いて行く教会となる」ことを年間目標にしている私たちは、教皇レオ十四世の姿から学ぶ必要があります。

ヨゼフ・アベイヤ

と語られた。

午後は、福岡教区宣教・養成委員会委員長のレナト・フィリピーニ神父(聖ザベリ才宣教会、糸島茶山教会が、教区創立100周年に向けた3年目の取り組みの視点から「福音宣教と宣教養成」について講話した。宣教は宣教師や修道者・司祭によって行われる特別なことではなく、洗礼を受けたすべての者の共通の使命であり、キリスト者としての信仰の成熟の現れである。また、それぞれの生活の場における言葉と行い、つまり、「存在」そのものによる「証し」によって行われることが

語られた。

続いて熊本地震について、被災地・八代のフェルッチョ・プランビッラスカ神父(ミラノ外国宣教会、八代・水俣教会が支援への感謝を述べ、福岡カトリック担当司祭の寺浜

亮司神父と熊本サポートセンターの申東輝神父より被災者支援報告と、これからの具体的なボランティア活動についての取り組みについての報告と協力要請が行われた。

青年活動に関しては、青年担当者より、長崎管区青年キャンプ(10月11・12日)の実施報告に加え、福岡教区青年大会(11月21・23日)の準備経過報告と青年およびその他の信徒の参加要請が行われた。また、2027年8月3日・8日に開催されるワールド・ユース・デイ(WYD)ソウル大会「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」についての福岡教区としての取り組みと参加要項について説明がなされた。

最後にアベイヤ司教より、福岡教区青年大会の感謝ミサに青年だけでなく信徒、修道者、司祭へ参加を呼びかけること、司教館北側の空き地の売却状況、そして、現在、司祭不在時の主日の集会祭儀の実施について、主日の集会祭儀が連続して行われないように近隣の小教区で協力してほしいと要請がなされた。

訃報
マルセリーノ 谷 大二 名誉司教
(さいたま教区)

2026年10月10日(土)、かねてより療養中でしたが、さいたま赤十字病院にて帰天されました。享年73。



【略歴】

1953年 2月13日 兵庫県宝塚市に生まれる
1986年 3月21日 司祭叙階(浦和教会にて)
1986年 浦和教会助任
1987年 上尾教会主任
1992年 カトリック浦和教区事務局長
1993年 川口教会主任
1997年 館林教会主任
2000年 9月15日 司教叙階
2026年10月10日 帰天

令和8年熊本地震からもう3ヶ月が経って
ヨゼフ・アベイヤ司教

今年の7月28日に熊本地震が発生し、被害の大きさが明らかになっていくにつれて、さまざまな支援活動が始められたのです。(中略)これを可能にしたのは多くの人々のご協力です。(中略)

福岡教区としての活動はまだしばらく続きますが、募金は10月31日をもって締め切らせていただきます。全国から献金をしてくださった多くのグループや人々に心から感謝します。集まったお金は、被災者義援金、ボランティア活動のサポート、物資支援、教会施設の修理の援助などのために使わせていただいています。詳細は、福岡教区のホームページを通じて報告させていただきます。皆さん、本当にありがとうございました。※全文はQRコードよりご覧ください。



2026年11月22日 教区青年大会

WYDに向けて仁川教区の青年を迎えましょう

【日 時】11月22日(日)(12時~18時)
【場 所】旧福岡カトリック神学院
【対 象】福岡教区の青年
(18歳~35歳 高校生を除く)

<青年大会 派遣ミサ>

11月23日(月・祝)13時~
於:カテドラル大名町教会
(どなたでも参加いただけます)



2026年「聖書週間」(11月15日~22日)

聖書に親しみ、聖書をより正しく理解するために、特に関心を持って取り組みましょう。
<今年のテーマ>

もはや戦うことを学ばない
(イザヤ 24)

※聖書週間については教区ホームページ(右記QRコード)からご覧ください。



語られた。

最後にアベイヤ司教より、福岡教区青年大会の感謝ミサに青年だけでなく信徒、修道者、司祭へ参加を呼びかけること、司教館北側の空き地の売却状況、そして、現在、司祭不在時の主日の集会祭儀の実施について、主日の集会祭儀が連続して行われないように近隣の小教区で協力してほしいと要請がなされた。

毎年10月末になると、街は仮装や賑やかな装飾で彩られます。今や秋の風物詩として定着したハロウィンです。ハロウィンの起源は、古代ケルト人が行っていた「サウィン」という秋の収穫祭にあります。ケルト人の地域にキリスト教が広まると、古代ケルトの習慣とキリスト教の行事が結びつきました。ハロウィンは、聖人を意味する「Hallow」と前夜を意味する「Evening」に由来し、11月1日「諸聖人の祭日」の前夜祭を指す言葉です。古代ケルト人は10月31日を一年の終わりと捉え、収穫に感謝する「サウィン」の祭りを催しました。この日は死者の魂や悪霊が訪れると信じられており、災いを避けるため魔物の仮装をし、霊を鎮めるために食べ物分かち合ったのです。教会はこの風習を受け入れ、諸聖人を称える前夜祭へと昇華させました。教会は多様な文化を単一性のうちに受け入れてきた歴史を持っています(カテキズム1202条)。

現代のハロウィンは商業化が進み、霊的な意味が薄れつつあります。10月31日の前夜祭から11月1日の「諸聖人の祭日」、そして2日の「死者の日」へと続く3日間、お祭り騒ぎではなく信仰の神秘を深く黙想できる特別な時です。天国の諸聖人たちの思い、先立った魂のために祈りを捧げる恵みの時なのです。死はすべての終わりでなく、永遠の命への通過点です。11月の「死者の月」を迎え、地上の教会と天上の教会の交わりを思い、諸聖人の取り次ぎを願いながら、自らの信仰を静かに見つめなおす秋としましょう。(J)

福岡教区創立 100 周年に向けて



2027年7月16日、福岡教区は創立100周年を迎えます。教区報では、各小教区や団体、司祭・修道者、信徒が100周年に向け取り組んでいること、100周年への想いなどを募集中。こちらで紹介していきます。

「創立100周年」の情報は右記QRコードからご覧になれます。



私の信仰生活ストーリー 「始まり」

私が71歳の時、初めて教会に行ったのは、観光で訪れた長崎の大浦天主堂でした。祈りの未知の世界で、動揺と安寧を求め心が複雑に絡み合う自分を感じました。祈りとは、イエス様・マリア様との心の触れ合いなんだ、触れ合いこそが、心の奇跡なんだと思った瞬間に、目の前にイエス・キリストを名乗る御神霊が現れて、「そなたは教会に行きなさい」と言われて去りました。その時、私は5歳の時の出来事が蘇りました。外で遊んでいると外人さんに声を掛けられ、「君は教会に行きなさい」と言われて去って行きました。この事が70歳過ぎての返礼を受ける為の、人生の始まりである事に気付いたのです。今、目の前のイエス様の御神霊は、5歳の時の外国人の方だと思いました。再びイエス様と出会った事が、私の信仰への道の扉が開いた瞬間でした。後に夢の中でマリア様がカトリック小倉教会に導いてくださいました。

小倉教会 金子 聖賢

私の誇りの仕事 「羽化を待つ」



羽化を待つサナギの付いたプランター（丸枠内）

私は8年前にプロテスタントからカトリックへ転会し、お花を生ける会や聖歌隊、広報活動の奉仕をしています。

6月に入り入梅宣言が出たころ、教会のマリア像前にあるプランターの花を夏物に植え替えました。枯れたパンジーの中に毛虫を2匹見つけ、害虫だと思って迷わず潰しました。植え終わって水遣りをしていると、幼稚園の園長先生が出てこられ、「抜いてしまわれたのですね」と残念そうに言われました。「枯れて毛虫もついていたので」と言い訳したものの、「幼虫の成長を子どもたちも楽しみにしていたんですよ」と言われて、新しく植えたサルビアを見つめながら「私は悪いことをしたのだろうか」と複雑な気持ちで帰宅しました。

その夜は悩んで眠れず、「神様、どうすればよいでしょうか。良い解決方法をお示しください」と祈りました。すると明け方、園長先生の悲しみは、サナギの羽化を子どもたちと見られないことだったのではないかと気づいたのです。持ち帰っていた枯れ苗をよく見てみると、なんと、ナデシコの枝にサナギがひとつついていました。植え替え時には枯れ葉にしか見えなかったものでした。

すぐに根がついたままのナデシコを小さな鉢に植えて幼稚園へ届けると、園長先生はとても喜んでくださり、サナギを愛おしそうに見つめながら園児たちに昆虫の変態について説明されました。私もサナギの黒い塊の中に小さな金色の斑点を見つけて「きれいな蝶になるんだろうね」と、園児たちと一緒に美しく羽を広げる蝶を想像しながら見守りました。

未来ある子どもたちを育てる園長先生の眼差しと、人生の黄昏時に美しい花を咲かせることが楽しみの自分との違いをしみじみと思い、気づけた感謝とともに、「間に合って良かったです」と心からお詫びをしました。（水巻教会報「からしだね」第457号掲載） 水巻教会 福岡 東三子

教区青少年委員会

世界青年大会ソウルに向けて



全国WYD合同説明会（東京：真生会館）

をした。

今回のWYDは、韓国という初めての非キリスト教国で行われる。2024年4月29日には、旧福岡カトリック神学院において、ソウル教区から派遣された司祭と2人の韓国人の青年がWYDの十字架を持ってきて、長崎教会管区全体で迎え入れたイベントを覚えていられる方も多いかもしれない。

今回は、韓国という日本から参加しやすい場所で開催されることとなり、日本の各教区でも多くの青年たちを参加させたいとの機運が盛り上がっている。そのため、福岡教区としては、3つのコースを準備する。1つ目は、提携先の仁川教区との交流会+本大会のコース（12日間）。2つ目は、本大会のみのコース（8日間）。3つ目は、週末コース（4日間）である。近々、ポスターなどで案内し、申し込みを開始する。福岡教区

教区いのち・平和・人権委員会主催講演会 隣人を愛する一歩を踏み出す



「希望のまち」を語る奥田牧師

は、準備会や様々な活動を通して、教区内の青年の参加を促し、金銭面でもサポートしたいと考えている。信徒の皆さんにも、多くの青年に声をかけていただきたい。世界青年大会は、青年たちの信仰生活と人生が変わる大きなきっかけになること間違いなしの「世界中のカトリック青年との信仰の分かち合いの場」である。

かつての家族の機能を社会の中に創ることを奥田師たちは決めた。多くの困難を乗り越え7年かけて建物が完成した。

建物の名前は『希望のまち』。認知症のお年寄りや自殺しようとする若者に早く気づき、助けてと言える、葬儀をする家族の機能を備えた「まち」であり、音楽、読書、レストラン、誰もが気軽に寄れる「まち」でもある。あなたは一人ではないよ「わたしがいる あなたがいる なんとかなる」と。

現在の『抱樸』には各種の事業で職員は120人以上いる。しかし、その始まりは、カトリック信徒の守谷榮二氏が、通勤時に会おう路上の人に自分のお弁当を差し出したことから始まった。たった一人の隣人愛が教会を動かし、『希望のまち』へと繋がったのである。

「希望のまち」に毎日行つて安心したい」とお年寄り、「感動した、私にもなにかできるかね」カトリックの望む教育が、5人家族が平均であった日本の家族構成は3人家族になり、単身者が増え、若者の自殺者が増え、富裕層と低所得者層の経済格差がいのちの格差にまで及んでいる。分断と孤立の現代にあつて、

教区宣教・養成委員会主催講演会 人生の山と谷を見つめて



人生について講演するシスター高木

れ、お互いの心が通じ合うと奥田氏は言う。出来ることではないと思うことが38年出来ているのだ。隣人を愛する一歩が踏み出せますように。

大名町教会 原山映子

9月21日、大名町教会大聖堂において、教区宣教養成委員会主催のシスター高木慶子講演会が開催された。演題は「人生は幸せと悲しみが混じった河ではないでしょうか」人生は山あり谷ありで、すねてあつた。

山口、熊本、佐賀各県など、県外からの参加もあり、大聖堂は約200人の参加者で埋まった。

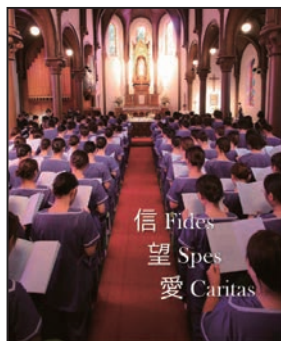
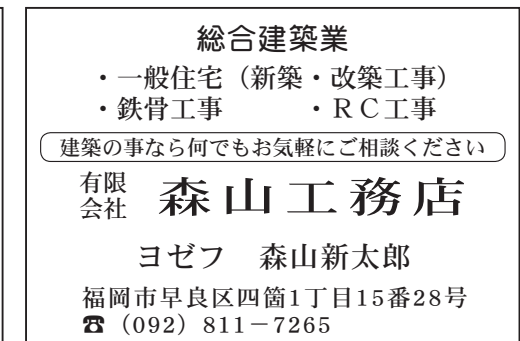
計報

ロレンツォ・マネルバ 神父
(ミラノ外国宣教会)



2026年10月17日、イタリア・レッコにて帰天。享年91。

1935年9月30日生まれで、1963年3月30日司祭叙階。長年にわたり日本で宣教活動に携わり、福岡教区でも1994年から鹿島教会や武雄教会の主任を歴任し、司牧のためにも奉仕された。2022年からは聖母の騎士会・ロザリオの園でチャプレンを務め、2023年にはダイヤモンド祝を迎えられた（2023年教区報3月号掲載）。翌2024年にイタリアに帰国。



死刑制度について考える
—教誨師活動150周年を通して—



本願寺熊本別院での大会

2026年10月3日、熊本市の本願寺熊本別院で、熊本刑務所教誨師活動150周年記念大会が開かれました。熊本刑務所で奉仕する各宗教の教誨師が、活動を広く知ってもらおうと初めて一般公開の形で企画したものです。この教誨師グループは、日本で最も古く、また組織としても非常に整った伝統ある集まりとして知られています。

開催の根底には、受刑者の人生にもっと関心を寄せてほしいという願いと、死刑制度の廃止を求める思いがあります。罪を犯した人々が教育やケアを通して回復の道を歩めるよう教誨師として、また刑務官とともに積極的に取り組みを進めることが願われています。

当日は、現職の熊本刑務所長・石井弘幸氏も来場し挨拶しました。記念講演では、死刑制度を題材とした映画を制作した森達也監督が、現代における宗教の意義について講話。続いて、10宗教の24人の教誨師が紹介され、年間を通して行われている受刑者支援の活動をまとめた短い映像が上映されました。また、43年にわたり教誨師を務め、6月に引退した後藤法龍氏の歩みも紹介され、会場は深い感動に包まれました。

しかし、一般参加者は80人にとどまりました。刑務所の実情や受刑者の生活、そして死刑制度について、社会で語られる機会は決して多くありません。今回の大会は、こうした「忘れられた現実」に光を当てる試みでした。まさに「荒野で叫ぶ声」のような小さな一歩ですが、私たちは希望をもって歩み続けたいと願っています。

熊本刑務所カトリック教誨師 シルバノ・ダ・ロイト神父
(聖ザベリオ宣教会、菊池・山鹿教会)

今村教会の歴史と建築を語り合う
—保存修理を機にシンポジウム—



解説する福島綾子氏（左）と安藤智子氏

10月12日、大名町教会1階講堂で、シンポジウム「カトリック今村教会の歴史と建築—そして福岡教区・日本の教会建築—」が開かれた（日本建築学会九州支部主催）。参加者は約80人。

今村教会は1913年、鉄川與助の設計・施工により建てられ、国の重要文化財となっている。2024年からは、約10年にわたる保存修理・耐震工事が行われている。前日の10月11日には、今村教会の保存修理現場見学会も開催され、北海道から沖縄まで、全国各地から参加があった。

修理の前提として、宣教師や信徒、技術者たちがどのように教会共同体を形成し、資金を調達し、技術的な工夫を重ねて教会堂の建設に至ったのか、またその基盤となった当時の信仰がどのようなものだったのかを、学術調査によって明らかにすることが大切である。本シンポジウムはその調査研究の成果を公表する場として企画した。

大川畑博文氏（文化財建造物保存技術協会）が修理工事の内容と現状を報告した。安藤智子氏（西南学院大学）と筆者は、パリ外国宣教会が所蔵するフランス人宣教師の書簡をもとに、今村の信徒発見から初代教会堂の建設までの道のりをたどった。山田由香里氏（長崎総合科学大学）は福岡教区の黎明期を支えた大工たちを紹介し、建築の部では、筆者らが近代日本のカトリック教会建築の系譜のなかに今村教会を位置づけた。

九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 福島綾子

真命山
諸宗教者が集い、平和を祈る



10の諸宗教団体が集った真命山での集い

10月4日は、宗教間対話の模範であり、その守護聖人でもあるアッシジの聖フランシスコの記念日です。今年は聖フランシスコの帰天800周年にも当たり、真命山諸宗教対話センターで、第17回「諸宗教者による平和の祈り」が開催されました。この行事は隔年で行われています。

当日は、真命山が対話を重ねてきた親しい対話パートナーである10の宗教・宗教団体（天台宗、禅宗、日蓮宗、浄土真宗、天理教、大本、白光真宏会、イスラム教、ルーテル教会、カトリック教会）を代表する方々が参列しました。

約2時間にわたり、各宗教の「平和の祈り」が順次さげられました。その後、参加者は再会を喜び合い、軽食を囲みながら、和やかな雰囲気の中で歓談しました。

クラウドディオ・コデノッティ神父（聖ザベリオ宣教会、荒尾・玉名教会）

二日市教会、
献堂75周年に感謝



ミサを司式するアベイヤ司教
(左：二日市教会主任・竹森勇神父)

10月4日、アベイヤ司教をお招きし、「献堂75周年記念感謝ミサ」を捧げていただいた。75年にわたり、二日市の地に福音の光が灯され、典礼とみ言葉を通して信仰が育まれ、愛のわがが実践されてきたことを、共同体一同、神様に感謝するひとときとなった。

ミサの中で司教様は、マタイによる福音「ぶどう園のたとえ」を通して、神様が私たちに注いでくださる愛について語り、年齢に関係なく信仰を深めていくことを伝えられた。堅信の秘跡に与つた5人の小中学生に向けては、イエス様とのつながりを大切に、人生の波に揺れるときにも聖霊の導きに支えられながら、キリストの弟子として歩み続けてほしいとの励ましをいただいた。

私自身も幼少期からこの教会に通い、初聖体や堅信の恵みをいただき、結婚式や娘達

不動山の殉教者を偲んで



130人が集った不動山殉教者祈念祭

佐賀地区宣教養成委員会主催

大坪 亜希子

の堅信等、人生の節目に、歴代の神父様方や信徒の皆様温かいお支えをいただきながら今日に至っている。75周年を迎え、これまでいただいた恵みと出会いに感謝し、神様の愛を新たに受け止めながら、これからも信徒一同、福音の喜びを地域と分かち合い、希望をもって歩み続けていきたい。

130人が集い、殉教者たちの歩みに思いを寄せた。はじめに、イエズス会のデ・ルカ・レンゾ神父（日本二十六聖人記念館館長）が「佐賀の殉教者について」と題して講話し、1600年代前半から後半に佐賀とその周辺で迫害を受けた人々を紹介された。当時の過酷な状況と、信仰を守るために払われた犠牲を知り、この地域にも深い殉教の歴史が刻まれていることに胸が震えた。

特に心を打たれたのは、「殉教者の思いは消えない」という言葉と、「殉教者たちは単

胎児のいのちを守るため



講師のヨセフ神父

9月20日、小郡教会で「胎児のいのちを守る」と題した講演会を開催し、141人が参加しました。福岡で暮らすベトナム人青年の増加と、現場での切実な司牧的必要性から企画しました。

若者の定住・結婚は神と教会の祝福です。一方、生活や仕事のプレッシャー、自分中心的な考え方、そして、胎児のいのちを守ることに至るまでの知識や経験が不足から、時に痛みしい選択がなされる現状もあります。こうした背景から、胎児の尊厳を守る学びの場が不可欠だと考えました。プログラムは3部から構成されました。

第1部では、ベトナムのスワノンク教区で160人の妊婦や子供を支援する専門家・ヨセフ・ティック神父が、実体験をもとに「胎児の声」を代弁し、いのちの尊厳を訴えました。

第2部では専門学校の日本人講師が、女性が受けるハラスメントや虐待への対処法、公的相談窓口などの実践的知識を伝えました。

第3部では、筆者が「カトリック教会の社会教説から見たいいのちを守る」と題し、聖書から教会の教えまでを説明しました。母親の胎内に新しいいのちが始まった時から、いのちを大切に守る守ることの重要性です。教会が用いる実践的な倫理原則など

カトリックの教会葬
共に祈り・共に送る



株式会社
みこころ舎

旧カトリック神学院 旧修道院 内

問合せ
050-3032-1333

※下記QRコードからベトナム語訳がご覧になれます。



についても説明しました。講演の合間には若者によるダンスや交流の時間が設けられ、互いの絆を深めて心を元気にしました。

最後にヨセフ・アベイヤ司教司式のもと、6人の神父による共同司式ミサが捧げられ、1人の青年が堅信の秘跡を受けました。神様の祝福のうちに、実り豊かな一日を終えることができました。

ファム・バン・チュエン神父
小郡・鳥栖教会助任

ド・ロさま
ラーメン



Nagasaki Spaghetti

長崎スパゲッティ
Since 1863

株式会社サンフリース ド・ロさま麺工場

長崎市西出津町2528-1

TEL(0959)23-0610

FAX(0959)23-0611

右記URLから
ご注文できます



年間目標

「出向いて行く教会」
となる

第77回 福岡市民クリスマス

日時：12月17日(木)
開場 18時
開演 18時30分
終演 20時40分
場所：福岡市民ホール
中ホール



<内 容>

- ・クリスマスメッセージ
 - ・中村倫明大司教(長崎大司教区)
 - ・室内楽「アカデミーデザール福岡」
 - ・西南学院大学聖歌隊チャペルクワイア、福岡市民クリスマス聖歌隊賛美
- ※入場無料 ※詳細は上記QRコードから

熊本地震復興支援 西原村復興寄姫伝説米
購入支援のお願い

加藤ご夫妻とお孫さん(左)

【福岡教区の皆様へ】



日頃から西原村の地震復興へ多大なるご支援をいただきまして本当にありがとうございます。

地震発生以来10年が過ぎましたが、私たちにとりましては長い10年でもあり、あつという間の10年でもありました。今日までずっとお支えくださいました皆さまには、ただただ感謝の気持ち一杯でございます。

今までに経験したことのない異常気象の中で、私たちは必死になっておいしい米づくりに努めて参りました。どうか皆さまご理解くださいますようお願い申し上げます。新しい価格、厳しい農家の実情を考慮したものでございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

NPO法人・阿蘇 代表：加藤 義明

＊お米の注文は各小教区にある注文書でお申し込み下さい。また右記QRコードからも注文書がダウンロード出来ますのでご利用ください。
※詳細は福岡教区ホームページをご覧ください。
教区HP <http://fukuoka.catholic.jp/help/>

2026年日本カテキスタ会第46回公開講座
【新しいカテケージズ指針】

カテケージズとは、心を響かせることです。教皇庁から新しい信仰教育の指針が出ました。一緒に学びましょう。

[日 時] 11月13日(金)・14日(土)

[場 所] カテドラル大名町教会

[講 師]

- ・高見三明名誉大司教 (NCK 参与/長崎大司教区)
- ・Sr. 原敬子 (援助修道会・上智大学神学部教授)
- ・中村倫明大司教 (NCK 顧問/長崎大司教区)
- ・遠山 満神父 (聖アウグスチノ修道会)

[問合せ先] ☎080・1732・2744 (原山)

＊定員100名。どなたでも参加可。

＊資料の準備の都合上事前申し込み有(当日参加不可)

※詳細は教区ホームページ、または上記QRコードからご確認ください。



一 召命を共に祈る会・ミサと分かち合い

福岡地区 11月17日(火) 13時30分～ 大名町教会
[問合せ先] ☎090・6422・2257 (山口)

北九州地区 11月14日(土) 14時～ 小倉教会
[問合せ先] ☎0949・24・9905 (藤井)

熊本地区 11月5日(木) 9時～ 手取教会
12月3日(木) 9時～ 手取教会
※聖フランシスコザビエルの祝日に合わせて
[問合せ先] ☎096・352・3030 (手取教会)

一 各種団体の定例会・その他催し

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報11月号」、または右記QRコードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス
<https://fukuoka.catholic.jp>
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com



案 内 板

会合と催し

11月のこよみ

福岡教区創立 100 周年に向けて
かつどう・できごと掲示板

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう

2027年7月16日 教区創立記念日まで あと

2026年7月～2027年7月

テーマ：出向いて行く教会となる

教区報 紙面投稿募集！

文章は400字程度を目安に。短い一言メッセージや、写真・イラスト、ちょっとした思い出話でも大歓迎です。

- テーマ：1. 100周年の記念にやりたいこと
2. 100年後の福岡教区を想像する
3. 未来の福岡教区へ贈る言葉

応募先 E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

(郵送) 福岡市中央区浄水通6-28司教館 広報部

257日

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：祈りの人々と出会う「主は御自分の親しい人に御旨を示される」(詩編25・14)

日 時：11月12日(木) 10時～15時
内 容：ザカリヤとエリサベト：神の訪れ気づく人々
「主はほめたたえられよ」

次 回：12月10日(木) 10時～15時
内 容：マリア：心に言葉をたたえる人
「わたしの魂は主をあがめ…」

問合わせ先：真命山諸宗教対話センター

☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186

熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

E-mail shinmeizan@gmail.com

☆個人またはグループでの懇話会、研修会も歓迎いたします(要予約)

集いの詳細は、
各問合せ先に
お尋ねください。

- 美野島司牧センター
ホームレスの方に温かい食事と衣類 毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊き出し
第2・4金曜日
調理14時から 夜回り21時
路上からアパートに入居した方を訪問 第2土曜日14時
[問合せ先] ☎092・431・
- 1419 ジョンソン・デソー
ザ神父
■大濠カトリック会館・宣教
養成センター
○ミニアサロン大濠
第1・第3水曜日10時
[問合せ先] ☎092・753・
- 6765 角田
○みことばのお弁当
2026年度「幸いの宣言」
第4木曜日10時
[問合せ先] ☎092・753・
- 6765 大濠カトリック会館

- 1419 ジョンソン・デソー
ザ神父
■大濠カトリック会館・宣教
養成センター
○ミニアサロン大濠
第1・第3水曜日10時
[問合せ先] ☎092・753・
- 6765 角田
○みことばのお弁当
2026年度「幸いの宣言」
第4木曜日10時
[問合せ先] ☎092・753・
- 6765 大濠カトリック会館

- 自死された方々のための追悼ミサ【主催 教区認証福岡ゆりの会協力・長崎ゆりの会】
身近な人を自死で失った方、一人で重荷を負われている方、ともに祈りを捧げましょう。
[日時] 11月21日(土) 14時
[場所] カテドラル大名町教会小聖堂(司式) 青木悟神父(久留米教会主任) [問合せ先] ☎090・8410・
- 8927 (叶堂) ※当日参加できない方も意向や共同祈願
[問合せ先] ☎090・8410・

- 教区宣教・養成委員会「黙想と祈りの集い」テゼの歌と共にお受けします。
[日時] 12月4日(金) 19時半
[約1時間(場所) 大名町教会小聖堂(問合せ先) ☎080・3227・8295 (杣)]

編集後記

今号の「時の話題」で触れられていた聖書勉強会に私も参加しています。皆さまとの

A Life Held Together by the Mercy of Jesus
— A journey through failure, faith, and God's unfailing grace —
Joseph Kannampilly

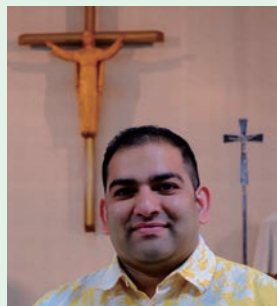
When I look back on my life, I do not see a perfect journey or a story of success. I see a life held together—again and again—by the mercy of Jesus. I was blessed to be born into a Christian family in Kerala, South India. That itself, I now realize, was one of the greatest mercies of my life. My parents were deeply rooted in faith. From my childhood, attending Holy Mass every morning was not an obligation, but a way of life. My mother was the quiet strength of our home. She lived a life of sacrifice—fasting, praying, and never missing a single Holy Mass. No matter how difficult life became, she remained on her knees in prayer. Many times, I did not understand her faith. But today, I know that it was her prayers that carried me when I could not stand on my own.

My father's life was filled with health challenges—from serious illness even before I was born to later being diagnosed with heart disease. As a child, I remember the fear of losing him. I also remember the pain of hearing others say that my failures in school were adding to his struggles. Those words stayed with me. In those moments, I would turn to Jesus and pray in the simplest way I knew: "Lord, please give my father more time." That prayer, I now believe, was heard. My father is still with me today, walking beside me through every stage of my life. That is not something I take lightly—it is a living testimony of God's mercy.

自分の人生を振り返ると、それは完璧な人生でも、成功の物語でもありません。何度も何度も、イエスの憐れみによって支えられてきた人生だと感じています。私は南インド・ケララ州のキリスト教の家庭に生まれました。今思えば、それ自体が大きな恵みでした。両親はとても信仰深く、幼い頃から毎朝ミサに与ることが生活の一部でした。母は家庭を静かに支える存在でした。断食と祈りを大切に、どんな時もミサを欠かすことはありませんでした。どんなに困難な状況でも、母は祈り続けていました。子どもの頃はその意味がよく分かりませんでしたが、今では母の祈りが私を支えてくれたのだと感じています。

父はこれまで多くの病気を経験してきました。私が生まれる前から重い病気を患い、その後も心臓の病気が見つかりました。幼い私は父を失うことへの恐れを抱えていました。また、自分の成績が悪いことで父に負担をかけていたと言われたこともあり、心がとても痛みました。そのような中で、私はただこう祈りました。「イエス様、どうか父にもう少し時間を与えてください」。今も父が元気でそばにいてくれることは、神様の憐れみのしるしだと感じています。(…continued)

全文と日本語訳はこちらから →



カナムピリ氏(光丘教会聖堂にて)

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話 080-2694-4182

受付時間 月～金(祝日を除く)

10:00～12:00 13:00～16:00